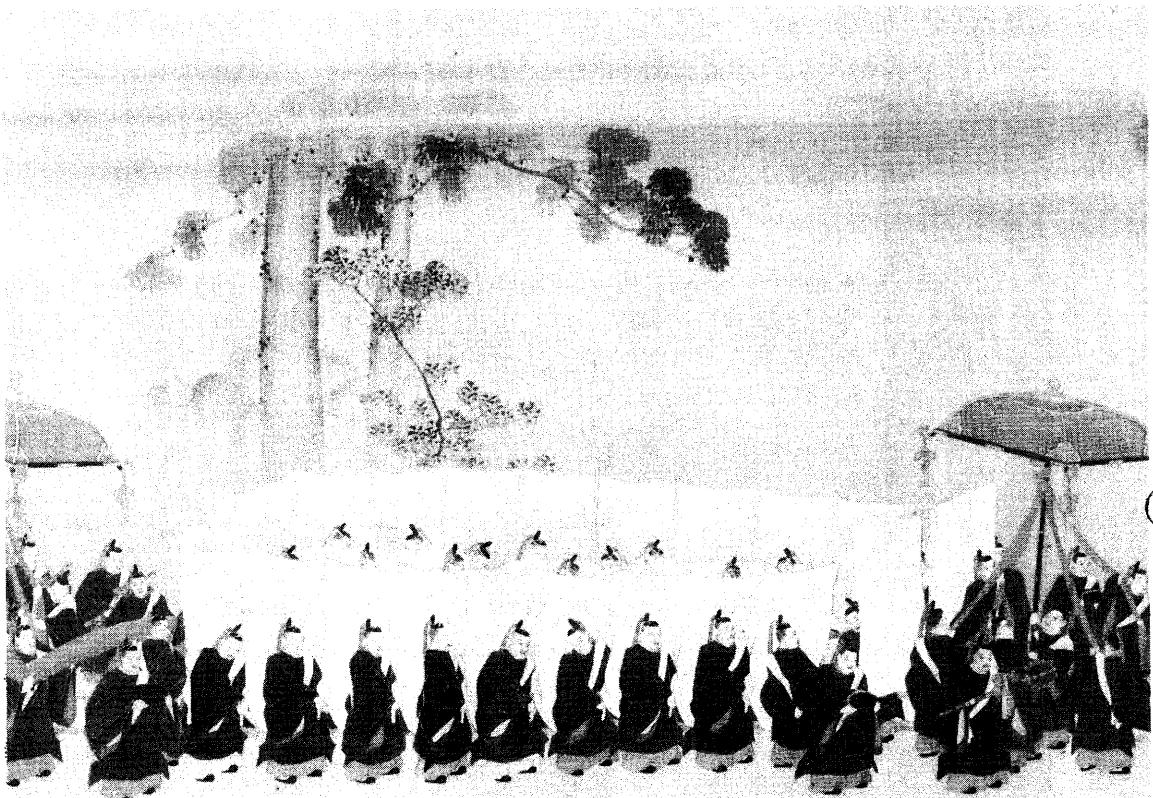


第二十九号

若竹

第六十一回式年 神宮式年遷宮



国民総参宮を
致しましょう!!

御挨拶

愛媛県神道青年会



会長
武智正人

を教訓とするのか、それとも日本の将来の姿とするのかの選択です。

故ノーナート・シミー田
だつたと存じますが、
『日本には、ありとあらゆる

無い

歐米文学を読んでいます
と、民族の誇りを、文化や
伝統を尊重するか故

に最大の屈辱は国旗を燃やされる事等がよく出て来ま

10

同上

外国より侵略を受けた経験が極めて少ない我が国で

は、所謂國体を捉えられ

でない為か、占領政策の影響か、全てを合理主義、

又はその場の感覚主義にて

進んで行き、すぐに馴染ん
でしまふ様ニ序ジミテ。

でしま一樣に存します

天照皇大神様より授かつた、「斎庭の稻穂」を受け継いで、大嘗祭、新嘗祭が行われる我が「豊葺原の瑞穂の国」で栽培されるは、陛下御手植のみとなりはしないか、豊穣を感謝する秋の祭りが単なるセレモニーとなりはしないか、豊穣を感謝する秋の祭りが単なるセレモニーとなりはしないか、味噌汁と御飯は飽きがこず、米の飯を食せば力が出る様に感じられるのは、日本人の体質ではなく本質だと思いつます。

神道青年会

会
開催さる

定时總全

- 去る五月十一日、道後メルパルクに於て、神道青年会定時総会が開催されました。

活動計画

- 初詣啓蒙ポスター製作配布
 - 同、テレビスポット放映
 - 玉串料裁判等の支援

- 県内各研修会
 - 観月神楽の開催
 - 新年互礼会
 - 会報若竹の発行
 - 研修旅行の実施
 - その他、役員会決議事項

參加活動・奉仕活動

- 四国四県禊修法研修会

第十九回 四国地区 神青氏青

合同研修会に参加して

一宮神社 稲宜 早田 雅雄

『環境問題と神社』

一蘇れ鎮守の森』

八月二十六・七日オリエ

ントホテル高知に於いて、四国地区神青氏青合同研修会が全国各县の神青会を統轄する「神道青年全国協議会」西高辻会長を迎へ、行されました。

開講式を終え、『映像の世界と鎮守の杜』と題して

島文博先生をお招きしての

映像の世界には、神社の社殿と鎮守の杜との調和が醸し出す清涼感と厳肅さがあり、映像の背景には、自然が造り出す森林及び、古くから受け継がれて来た建築物の神秘性等人々の親密な語らいのなかで守り伝えよう、映像の世界に写し出そうと、脚本作りをしておられるそうです。

第二講として、『鎮守の杜と近自然工法』と題して

西日本科学技術研究所の福留脩文先生より、近自然工法の説明がありました。約二十年前より、ドイツやイスで行われて来た工法であり、直線化された河川を左右に蛇行させ水流の緩急を付けてバクテリアを始め、魚介類等の動・植

物の繁殖の場を確保し（日本の建築法では、玉を抱かせる、というそうである）。同時に我々にも自然に親しむ空間を確保する訳です。そして道路や公園、駐車場等の生活空間は、大鋸屑や間伐材、煉瓦等で舗装し

八月四・五日、高知県にて
○四国地区研修会
八月二十四、二十五日
高松市にて
○日本を守る会、四国大会
九月六日、松山市にて
○神青協、中央研修会
平成七年二月、山口県にて

神社本庁にて
○神青協、夏季セミナー
八月三十、三十一日
や間伐材、煉瓦等で舗装し

（事務局は、最終ページ参考照）

各活動、皆様の御協力を
御願い致します。

尚、各研修会は修了書が
発行されます。参加御希望
の方は、事務局まで御一報
下さい。

（事務局は、最終ページ参
照）

たり、橋や手すり等を造つたり、網目状のブロックで駐車場を被い草木類を生やして生きた地盤を残したりして、自然本来の状態に少しでも近づけて行こうとするものだそうです。

又、明年は終戦五十年を迎えるにあたり、愛媛県護國神社での八月十五日の御祭典に御協力をさせて戴ければとの方針です。



（中島 先生）





こういった事を沢山のスライドを使って様々な例を挙げながら、日本も早くこの工法を取り入れ、自然の空間を護つて行くことが最大の課題であり、この事は鎮守の社を護る事でもあるのだ。と言われました。

そして最後に氏は、御自分が娘さんの写真を映して、「二十一世紀はなにも遠い事じやない。この子達がそうなんだ。」そう言われました。

『鎮守の社を守る』といふ大切な使命を果たす事は地球をも護る事に通じるんだと改めて痛感致しました。

これからは、今まで以上に神道教化も大切に考え、日本人が古来より培ってきた神道の精神を後の世代へ伝えて行きたいと思います。

第三講では、「鎮守の社をどうするか」と題して、高知新聞社の掛水雅彦氏に御講話戴きました。

氏は、「鎮守の社」とい

う言葉を果たして若い人は知っているのかどうか、そして、この言葉が死語になりました。

といった問題を同新聞社の内部にて調査したところ、ほぼ全員が知らなかつた、等といった残念な結果に終わつた。と報告されました。

そしてまた、氏子意識の中ではどのように考えられてるのか。等の問題提議をされ、我々神社関係者の姿勢の甘さを指摘なさり、もつと一般の人達、特に若い人達に神社を理解して貰う為に我々の働き掛けを望んでいる。と締め括られました。

「遷宮奉祝伊勢街道参宮キャンペーン」と銘打つて、神道青年協議会の会員百四十名が参加し、十一月二十四・二十五日の二日に渡つて開催されました。

当県からは、武智会長、御田村四国地区理事、そして私の三名が参加し、揃いのハッピ姿で桑名市から伊勢市の間の旧街道を歩き、内宮に宇和島の特産品を献納致しました。

一日目は、桑名の神宮第一の鳥居での出発式の後、

リレー方式で約十キロ。二日目は、全員で松坂から外宮、更に内宮迄の三十キロ余りを、「国民総参宮キャンペーン・伊勢街道歩いて参宮」の幟を手に、風情の残る晩秋の街道を行進致しました。

沿道各所に道標や常夜灯、茶屋跡の碑等があり、先人奉祝行事でした。

神青協遷宮キャンペーン

「桑名から伊勢まで」

遷宮啓蒙推進委員 久保浩丸



を偲びつつ、観光バスでの参拝では味わえない様な感動と興奮を覚えました。又、翌日の新聞各紙の地方欄に紹介され、意義深い奉祝行事でした。

天皇皇后両陛下御来県

奉祝パレードに参加して

愛媛県神道青年会

会長 武智正人

私が昭和天皇陛下の御尊顔を初めて拝したのは、学生時代、陛下の伊勢の神宮

御幸の際であった。伊勢の御幸道路にて、沿道に配置させられ、陛下の御車が通られたとき、只、

上体を伏していた事をよく覚えている。

今上天皇陛下・皇后陛下が「第十三回・全国豊かな海づくり大会」御臨席の為、愛媛県に行幸遊ばされるに依り、平成五年十一月六日、「天皇皇后両陛下愛媛県御来県奉迎委員会（小田慶孝会長）の呼び掛けにより、両陛下御来県奉祝パレード

が行われ、約八千名の方々が参加された。当日、神道青年会メンバーハ八名が、松山南高校に参集。パレードの各梯団の統制係を御奉仕させて戴いた。

パレードは南高校より銀天街、大街道を抜けた勝山町交差点にて解散の予定。参加者は配布された日の丸の小旗と提灯を手に両陛下万歳の声も高く、市内をパレード。商店街を歩く人々にも、日の丸の小旗を配りパレードとなつた。勝山交差点にて一応解散であつたが、県民文化会館

より御宿泊先へ移られる陛下を拝そると、パレードはそのまま道後へ移動。陛下の御出ましをお待ちした。

いよいよ陛下の御出ましである。一瞬、群集であつた我々は黙した。

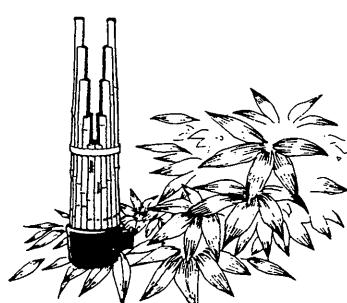
白バイと黒塗りのオーブンカーの先導の後、陛下の御召車が文化会館の門より御出ましになつた。黒い大きな御車だつた事しか記憶にない。只ひたすら後部座を注目していた。

陛下は御召車のルームライトを点灯され、沿道に並ぶ私達の方へ身を乗り出されて、にこやかに微笑みながら御手を御振り下さった。

その後自然解散となつたが、傍らの御夫人が「今日はとつてもいい気持ちだねえ」と、お連れの方へ話されていたのが、今もよく心に残つてゐる。

その後自然解散となつたが、傍らの御夫人が「今日はとつてもいい気持ちだねえ」と、お連れの方へ話されて、にこやかに微笑みながら御手を御振り下さった。テレビや写真で何度となく御見受けしている御尊顔であつたが、ほんの数メートルの距離にて陛下の御顔を拝しているのだといふこの実感。何時の間にか上体を伏していた。

うか。溜め息、拍手。「よかつた。よかつた」と、つぶやき囁くような声。満足気な声、声。



神青協神宮研修会参加報告

御田村駿一

・期日 平成 6 年 3 月 8 日 (火) ~ 9 日 (水)
 ・会場 神宮及び神宮会館他
 「日本のこころを次代へ」

・当会参加者 会長武智正人・御田村駿一
 (会場の都合に依り、各単位会に参加人員の割当有り、愛媛県二名)

毎年全国各地区を持ち回る中央研修会(近年四国地区では、平成二年、香川県に於いて開催)も、十年毎には伊勢の地で開催されてきましたが、今次式年遷宮の斎行を受けて開催される中央研修会を期に、伊勢での研修会の在り方を根本的に見直す事となり、個々が神明奉仕の原点に想いを致し、自分を律し、体感、奉仕する研修で有るべき。との考え方から、名称も「神青協神宮研修会」と改められ、全国より約三百名が集い、右記概要にて開催されまし

我々青年神職は「遷宮のこころ=神道のこころ=日本のこころ」を次代に伝えてゆくべき使命を担い、そ

本研修会は、その趣旨通り、服装は全日程を通じて「白衣」・「白袴」、内容、日程も「自律」・「体感」・「奉仕」に重点を置いた実に密度が濃く、また厳しいものとなりましたが、特に、小雨降る二日目の早朝、早春の清冷たる五十鈴川にて行われた「禊」研修や、内宮古殿地と新宮御垣内の清掃奉仕は、身も心も引き締まる体験となりました。

遷宮に向けてその決意表明が成された訳ですが、そこで、会員諸氏にお願い申し上げたい事があります。必ず、次回第六十二回式年遷宮に関して、講師の先生方が一様に懸念をされておられた「今次式年遷宮」と比して、その諸要素・環境は、悪化の一途を辿る国の政教分離の解釈に拠る奉賛活動等への弊害や、御用材の確保、神宮建築、御神宝装束制作等特殊技術の維持継承、後継者の問題等に因り、決して楽観は許されないという事を先ずしつかりと認識しておいて頂きたい。そして、それを踏まえた上で、次回御遷宮に今次を上回る国民の奉賛と奉祝の真心が集約され、諸儀が無事厳粛に斎行される為には、只今

この時から、我々が何を修め、為すべきかに想いを致して頂きたい、という事です。

共に研鑽に励んで行きましょう。次回御遷宮の奉賛・啓蒙活動が始まるその時、「中心」にあるべき我々の人々に伝える言葉、示す姿が、自己の魂からの発露に拠るものである為にも……。

* 神宮式年遷宮に関しては、種々の書籍が刊行されていますが、通史的理解や、教学的成果に通じる上で、『神宮式年遷宮の研究』の御一読を御奨めします。

・購入先
 神青協事務局

〒155-1
 東京都渋谷区代々木
 1-1-1
 TEL
 03-3337-9180
 11

新年互礼会報告

平成 6 年 1 月 27 日 (木)

飯尾真通

企画致したく存じます。

その後部屋を移し、お神

酒を交えての御直会です。

今回は始めて出席なさった

方が二名もおられ、大変あ

り難く感謝致した次第であ

ります。

以上のようにOBの方々、

又女子神職の方々、そして

会員の皆様方の多数の御出

席を頂きました事をこの紙

面をお借り致しまして、厚

く御礼申し上げますと共に

今後とも一人でも多くの方

に御参加戴きたく存じます。

「わが国の伝統ある文化を尊び、また、世界の諸民族、社会固有の文化を尊重し、広い視野に立った神青協の活動を推進されたい」

神道青年全国協議会とは、全国都道府県に所在する、神道青年会を総括する団体です。会長は、西高辻信良君（福岡県太宰府天満宮司）。

今般表記の如く、記念大会が開催され、当県よりは、武智正人会長、真鍋豊孝副会長、

神青協役員として御田村駿一四国地区理事が参加した。記念式典にては高円宮殿下妃殿の御臨席を仰ぎ、

創立四十五周年 記念大会開催

平成 6 年 4 月 11 日

於、明治記念館

高円宮殿下妃殿下、御臨

席。殿下御賜の御言葉、

神青協役員、全

神青協の一年間の活動の指

針を決定する会である。

これは、神青協役員、全

神政連青年隊

代表者研修会報告

飯尾真通

平成6年3月17日（木）より十八日（金）の二日にはわたつて神社本庁に於いて『時局と神政連の立場』と題して、神道政治連盟の青年隊代表者研修会が開催されました。

第一講では、『神政連として時局をどうとらへるか』と題して、神政連中央本部幹事長・宮崎義敬先生が先日の細川前首相の「戦争責任公式謝罪の発言問題」を主軸に講話を頂きました。

「国としての公的な謝罪及び戦後処理は終わつており、国際的に観ても責任を問わなくなつていいのだから、そしてその事は他の国々に於いても問われなくなつていて、欧米諸国との知識陣も、日本は自衛の為

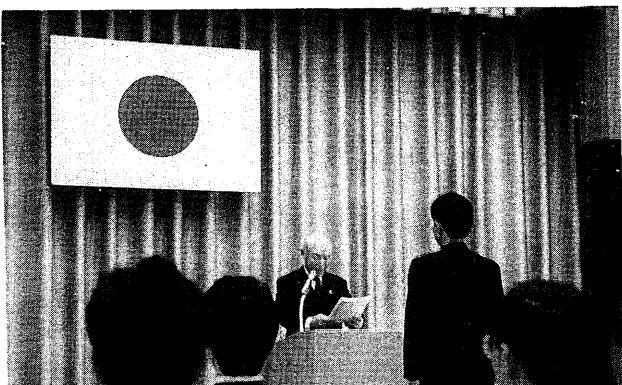
に止むをく開戦したので、あり、また、その事をきっかけとして欧米諸国の植民地であつた東南アジアの国々の独立が実現したのである。」と云う事を認めているのであるから我々日本人自身もむやみに卑屈になつて謝罪、謝罪と騒ぐのではなくもつと本質を理解して欲しい。」といったような事をお話しになりました。

また、玉串・靖国問題にも触れられ、我々自身がもつと日々の奉職のなかで氏子諸氏への啓蒙に勤め支援して行かなければならぬ。とも言われ、本部としての方針を改めて述べられました。

第二講では、共同通信社編集局次長である高橋紘先

生を招き、「ジャーナリズムから見た皇室問題」と題して、我々神道人とは違う視点での皇室観を御話下さいました。

先生は皇室関係専門の部



詳しい御話も聞かせて頂く事が出来ました。

先生曰く、「陛下は大変御人柄の御宜しい方で、私の存じ上げている範囲内でも分け隔てなく精心誠意真心を以て我々民間人に接して下さる方で、以前皇太子の時代にも、私が見ても思わず眉を繰めてしまう様な病の方にでも躊躇される事無く笑顔で手を握られて、御声を掛けられている姿を拝見致しまして、大変感激した事を覚えております」

との事で、現在の皇室報道に対しても、もう少し考えるべきであるともおっしゃつておられたようにわたしは記憶しています。

その他にも、新鮮で好意的だと思える様々な事を我々に御話下さいました。

二日目の全体討論では、今騒がれている平成米騒動についての活発な意見が交わされ、現実に「輸入米は日本の文化の中では育まれて来た物ではないから、日供

米としては御神前には供えることはしない。単に主食としてだけの米ではないのだから。」といった様な大変激しい意見も出されました。其に対し、本部の意見は、「稻作を行い米を主食として来た民族はそれぞれ日本と同じ様に米に対する信仰を持つてきたのだから、それを不定するのは如何かと思う。」というような答えを出されました。

この問題に関しては流石に切実なだけあって、大変活発に討論されました。

これは私見ですが、国産のお米が手に入らないのであれば、少なくとも、稻作の信仰が持ち続けられてきた國の米であれば、神前に供しても構わないと思います。

私にとって大変考えさせられる研修会となりました。

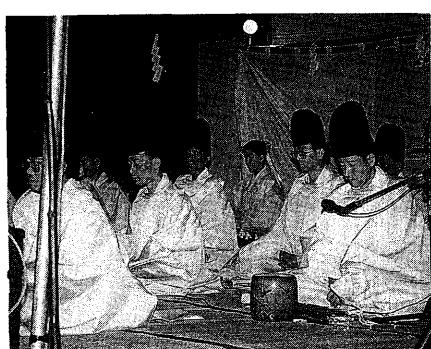
皆様、この「米の問題」そして、神道とは、まつり御考へを、御教へ下さい。

恒例の「観月神樂の夕べ」
本年は、神社庁、川之江支部が受け下さります。

一神社でなく、支部として御引受下さることとなり、準備や人集めも、支部とし

本年は川之江支部にて開催!
(写真参照)

折しも台風の直後ではございましたが、多数の方々の御参集を戴き、又、御多忙の中、多くの方々の御奉仕を賜り、盛大に催すことが出来ました。



記

奉納社 神社庁川之江支部
支部長熊本光栄殿
川之江市八幡神社

0899-5610321

真鍋 豊孝 神青会副会長

松山市 椿神社内

開催をお考への方、御説明に参上致します。

開催期間は、八月中旬より、九月中旬の間で、夏祭り等の都合の良い日を御選び下さい。支部にてお受け下さいましても結構です。

「尚、神樂奉納の皆様、巫女の皆様は御奉仕下さっております。謝礼、交通費などは一切不要です。」

「尚、神樂奉納の皆様、巫女の皆様は御奉仕下さっております。謝礼、交通費などは一切不要です。」

日時 八月九日、午後七時
より奉納開始。

鶴川神樂の夕べ

この催しは、氏子崇敬者の皆様に雅楽への御理解を戴き、各神社の発展、ひいては神社神道の隆昌を目指し行っています。

昨年は、宇和島市の宇和津彦神社（宮司、長曾我部相模殿）にて御奉納させて戴きました。

方々の御参集を期待致しております。御奉仕の皆様方、本年も宜しく御協力を御願い致します。

ただ今、平成七年の「観月神樂の夕べ」を開催させて戴く支部、神社の御受け入れを御願いしております。ぜひとも御協力下さいますよう、御願いを申し上げます。

お願い

宮司 竹内 光彦殿

平成五年度援助金・寄付賛助者

御芳名

(敬称略)

日女神	伊吹神	女神	一	*新年互例会お祝い金	金五千円也	*観月神楽お祝い金	金壹万円也	女神	一	*総会お祝い金	金参万円也
招子	予	子	宮					序松護	山國		
玉幡神社	茂豆揚	社	神					支神	神		
井大職	比古神	社	命					社	社		
正神	神	社	神					会	社		
素社会	社	社	社					厅	社		
嘉三石	風					多	一	石	金拾万円也	*東予	
母嶋岡	島伯					八坂神	都	宮	金参万円也	寄付賛助者	
石母堀	越馬					岐	沼	岐	金拾万円也		
川神川	智神	越神	野神			矢	矢	石			
漠泰	神	神	神			都築外	崎	野			
見規	通	正社	社			芳六嘉	神	神			
寿	實	社	社			哲夫	社	社			

高須熊	今網	三白玉	龍明保								
鴨藤賀	野宮	敷島	生	日	内						
鴨藤田	佐菅	天近大	平八別	川八矢	八						
神原神邊	神藤神	満藤神	岡神田	幡府	崎幡野幡						
重豁	伊光	神茂	益茂	神壽	弘神直						
光博	都捷	正社生	子	光社昭	社美	臣社					

八姫	三高	護連玉	石清	橘	岩弓	土	橋	檜	荒木		
幡子	皇浜	甲申賀	水	新	城						
安井	熊亀八	飯芥	高	八八宮	削居	八	八	本	大西		
藤大村	本神山	幡尾益八	宮	原幡原	原幡原	原	原	寺	三条	松木幡	
神弘	眞和神能	幡神	三神	敬神淨	神野神	野神	耕政	神聖	支	清神	
潔社二	克磨	神	神	社一郎	越内神	越内神	社	社	部	宜社	
社	康亮	社	人	郎	社	人	郎	郎	部	隆	

三 玉 加 還	金 壱 万 円 也	嚴 序 金	式 万 七 千 円 也	住 県 護 金	參 万 円 也	五 万 円 也	伊 予 豆 比 古 長 曾 我 部 金	* 中 予	西 条 塩 出 神 光 雅	金 式 千 円 也
島 生 茂 熊 島	萬 円 也	序 伊 松 辻 波 國	千 円 也	吉 田 神 爾 神	也	也	比 古 命 神 延 昭 神 社			
武 大 武 八 池 玉 八 柳		予 原 神 支 支 盛		社 莊 社						
智 明 智 幡 内 神 井 幡 原 神		支 部 雄								
和 神 神 公 次 神										
子 社 巖 社 和 明 社 宰 部										

三 天 天 高 當 三 金	五 序 大 日 忽 日 雄 三 阿 桑	○
一 井 田 島 满 千 円 也	小 宮 吉 那 招 郡 島 大 沼 原 石 八	
島 大 武 稲 都 八 頸 八 高	真 八 都 子 田 烤 幌 野 神 宮 八 井 大 島 玉 市 神 田 神	横 美 丸 幡 級 神 金 神
智 内 神 智 荷 野 幡 田 幡 市 神	和 神 清 社 四 幌 正 神 誠 清 信	大 美 九 五 社
純 神 政 神 重 神 俊 社	支 敏 社 彦 郎 宮 素 社 司 光 社	神 金 神 信 五 社
啓 社 明 社 二 社 子 社 則 社 次		

序 序 三 八 金	式 万 円 也	參 万 円 也	德 德 三 築 金
八 字 島 幢 吉	大 灵	七 万 円 也	元 川 别 島 渡 嶋 刀
幡 和 渡 洲 三 輪 田 神			矢 大 八 武 三 玉 渡 嶋 山 比
浜 山 部 神 岡 支 宣 太			野 神 野 幌 智 神 府 井 神 部 神 下 羅
支 部 栄 社 部 部 神 部 亮			賀 勘 神 宣 賴 島 貞 正 幸 神
			久 藏 社 住 社 雄 宮 臣 社 己 社 伸 社



(敬称略)

多 湯 新 八 金	五 千 円 也	宇 神 八 序
賀 嶋 田 坂 都 明	也	宇 宇 譜 和
久 菊 沖 阿 森 清		和 海 島 支
保 神 天 部 神 本 家 神		支 部
地 野 神 部 神 本 神		
凸 國 神 誉 重 社 茂 俊 定		
凹 丸 社 富 滿 章 孝 宏 社		

平 成 五 年 度 決 算 書

歳入の部

項 目	本 年 度 予 算	本 年 度 決 算	比 較 増 減	付 記
1 会 費	270000	250000	△20000	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200000	200000	0	戸
3 寄付金	1400000	1285000	△115000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	28576	314700	286124	特別会計より繰り入れ 預金利子
5 繰越金	601424	601424	0	
合 計	2500000	2651124	151124	

歳出の部

項 目	本 年 度 予 算	本 年 度 決 算	比 較 増 減	付 記
1 会議費	500000	347075	△152925	総会 新年互礼会 その他会議
2 研修教化	400000	528745	128745	表敬成 慶月神楽 神氏合研 その他
3 事業費	700000	504730	△195270	初番案内(ポスター) テレビスポット
4 広報費	150000	113612	△36388	若竹28号(6月号)
5 事務費	110000	63029	△46971	切手 業書 封筒 事務用品 握替手数料
6 備品費	10000	0	△10000	
7 旅 費	270000	90000	△180000	中央總会補助
8 慶弔費	40000	6390	△33610	御祝金 慶弔電報
9 分担費	200000	265000	65000	神賛協賛出金 四国地区提出金 北方領土
10 雑支出	50000	31114	△18886	会長退任記念品 戸等手土産代
11 予備費	70000	20515	△49485	各種団体臨時寄付
合 計	2500000	1970210	△529790	

歳入合計 2,651,124 円

歳出合計 1,970,210 円

680,914 円 (平成 6 年度一般会計へ繰込)

監査報告 上記各項目監査の結果、相違ないことを認めます。

平成 6 年 3 月 22 日

監事 堀 司 ㊞

監査 井上 貞人 ㊞

平 成 六 年 度 予 算

歳入の部

項 目	前 年 度 予 算	本 年 度 予 算	比 較 増 減	付 記
1 会 費	270000	250000	△20000	年度会費 新年互礼会費
2 助成金	200000	200000	0	神社庁助成金
3 寄付金	1400000	1350000	△50000	県内神社神職 その他援助金
4 雑収入	28576	19086	△9490	会報広告料 預金利子
5 繰越金	601424	680914	79490	
合 計	2500000	2500000	0	

歳出の部

項 目	前 年 度 予 算	本 年 度 予 算	比 較 増 減	付 記
1 会議費	500000	400000	△100000	総会 新年互礼会 その他
2 研修教化	400000	500000	100000	四国地区(研修会・講演会)観月神楽 夏期セミ
3 事業費	700000	700000	0	初詣案内
4 広報費	150000	180000	30000	若竹29・30号(6月・1月)
5 事務費	110000	110000	0	切手 紙書 封筒 事務用品 替手数料
6 備品費	10000	10000	0	
7 旅 費	270000	240000	△30000	中央総会 隆時総会
8 慶弔費	40000	20000	△20000	御祝金 その他電報
9 分担費	200000	270000	70000	神青協拠出金 四国地区拠出金 北方領土
10 雑支出	50000	20000	△30000	菓子
11 予備費	70000	50000	△20000	
合 計	2500000	2500000	0	

歳入合計 2,500,000円

歳出合計 2,500,000円

平成 6 年 5 月 11 日

愛媛県神道青年会

会長 武智 正人

源平合戦と義経にまつわる花

クマガイソウ・ヒトリシズカ

*一の谷の合戦

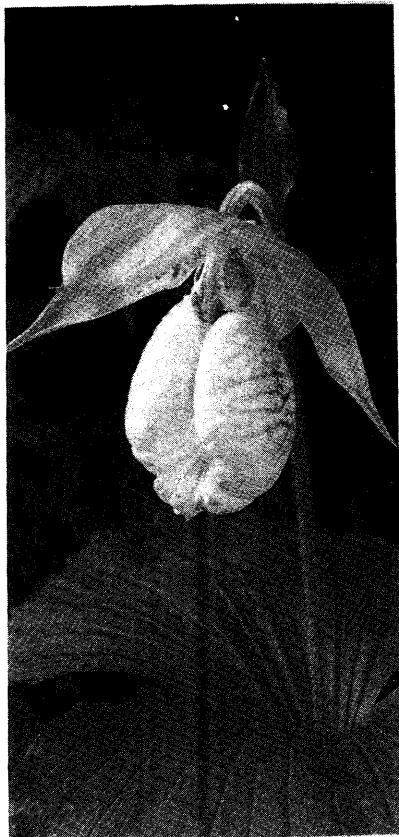
義経軍による「ひよどり越え」の奇襲で一の谷（神戸市須磨区）にいた平家軍の多くは舟で海へ逃れました。中には、若武者・平敦盛等の様に、勇敢に立ち向かう武将もいました。一方、彼に一騎討を挑んだのが、義経軍の豪勇・熊谷直実でした。

当時の武将は馬に乗る時、後方からの流れ矢を防ぐ事の出来る母衣（ほろ）といふ大きな布袋を背負っていました。母衣は、竹で編んだ玉状の骨組みを丈夫な布地で包んだ物で、紐で肩と腰に縛り付けます。敦盛と直実の勝負は呆気なく終わりました。敦盛のピンクの母衣は、流血で真

つ赤に染まつてゆきます。討ち取った敵の武将の顔はと見ると、未だ幼さの残る

顔。自分の姿と同じ様な年恰好です。戦いの残酷さ、虚しさを感じた直実は、やがて出家します。

ところで、両武将が背負っていた母衣に以た花形の蘭があります。唇弁がヒンクの球状で、敦盛の母衣を



*悲劇のヒロイン 「静御前」

義経の愛妾・静の産んだ子は男子だった為に鎌倉幕府の者に依つて殺されてしまします。傷心の静は鎌倉を去つて行きます。この静の名前をとつたのがヒトリシズカです。

花は白色のブラシ状で、



（ヒトリシズカ）

白拍子（男装の舞手）だつた静の華やかさとは、イメージが違う様な気もしますが、ネーミングの良さで、人気のある草です。それで

小説や俳句等で、

『ひつそりと咲くヒトリシズカ』等と表現したくなりますが、それは間違いです。ヒトリシズカの一本立は無く、群生して咲きます。

衣川で最後を遂げた義経主従は、天国で静かと再会し、みんな同じ草に生まれ変わったのでしよう。ほら、ヒトリシズカは仲良く株立ちになつて咲いているではありませんか。

連想させるのがアツモリソウ。一方の直実の白い母衣は幾多の歴戦で汚れていたはずです。きっと、クマガイソウの唇弁の様に。

お時間拝借

「マーフィーの法則」

皆さんは『マーフィーの法則』を御存知でしょうか。これはアメリカでベストセラーになり、日本でも大人気のお遊びの法則です。どうぞお楽しみ下さい。

*よく出来たのは周囲の御陰、失敗するのは自分の腕。(真実を反対に解釈する人が多いものです。)

*旅行の持ち合わせ場所には、一番近くに住んでいる人が一番遅くやつて来る。

*旅行では鼾の大きい人程早く寝つく。(これは世の常。誰しもが感じている事ではないでしょうか。)

*物の値段と壊れる確率は、比例する。

(値段の安い物はなかなか壊れませんが、高価な物程壊れやすいのが世の常ではないでしょうか。)

*駄目になるものは駄目になる。(駄目なものはいくら頑張つても駄目。人間あきらめが肝心です。)

*新しい場所は新しい問題を生ずる。

*良い服を着た人は、立派に見える。

(日本にもあります。「馬子にも衣裳」)

お守りの御下命は

*今物を買った店より、常に他の店の方が安い。

補足法則

*買い洩らした店より安い店はない。

(欲しいものを見つければ喜んで買います。が、他の店を覗けば同じ物がもつと安値であるものです。)

最後に、

*見当たらぬ用具は、新しい物を購入したとたん、見つかる。

(「眼鏡がないと大騒ぎしました。仕方無く新しいのを作りました。ふとしまつた服の内ポケットに手を入れたら、眼鏡がありました。」)

如何でしたでしょうか、楽しんでもらえましたでしょうか。

次号も頭休めの時間を取
りたいと思いますので、ど
うぞお楽しみに。

水戸奉製

〒311-1141
茨城県水戸市中丸町四八六一五
電話○二九二一五二一七五六三
FAX 五五一一三三三二

首藤印刷所

愛媛県西条市大町一五一七一二
電話○八九七一五五二一八九

装束祭具の御下命は

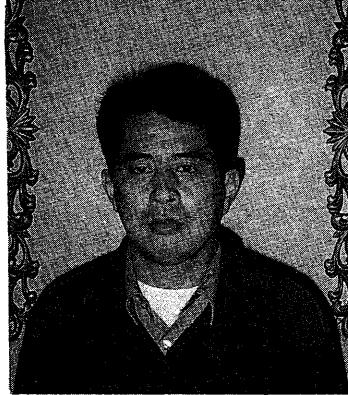
(有)竹重

タケ ジュウ

〒600
電話○三五三一〇三九四四
FAX(国際)
振替口座京都六一二四三二
京都市下京区西洞院花屋町上ル

《新入会員 御紹介》

*みなさん、よろしく
お願ひします!!



電　　自　　野　　口　　信　　隆

電話　　宅　　森正八幡神社　　祐宜

生年月日　昭和四十六年一月五月

温泉郡川内町大字南方一四二〇

一八〇八九九
六六一二五七七

*一言コーナー

森正八幡神社に祐宜として奉仕させて戴いている野口信隆ですが、この度神青年会に入会させて頂き、諸先輩方から様々な事を学びたいと考えています。今後とも御指導の程宜しくお願ひ致します。

電　　自　　是　　沢　　邦　　久

八幡神社　　祐宣

生年月日　昭和三十一年八月十五日

西宇和郡伊方町　湊浦一〇三二

三八一〇四九一

電　　自　　宅　　伊予郡砥部町五三〇

電話　　(六九)

六二一四六一九

*一言コーナー

本年度入会したばかりで未だ何も解らない者ですが、御鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

普段他の仕事を持つておる為、神職としての自覚がありますので、皆様と共に、コミュニケーションを重ねる事に因つて己自身を高めていこうと思つています。

二　神　良　昌

客王神社　　祐宣

生年月日　昭和三十年十二月十四日

伊予郡砥部町五三〇

自　　宅　　伊予郡砥部町五三〇

月十四日

*一言コーナー

お知らせ

○勝本 房利 君

西条市石鎚神社より福岡県へ
石鎚本教敬祥教会後継の為。

○田中 聰哉 君

西条市石鎚神社より愛知県へ
石鎚本教名古屋教会後継の為。

○合田 知由 君

新居浜市堀江神社より福岡県へ

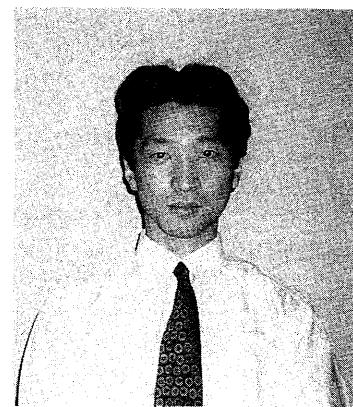
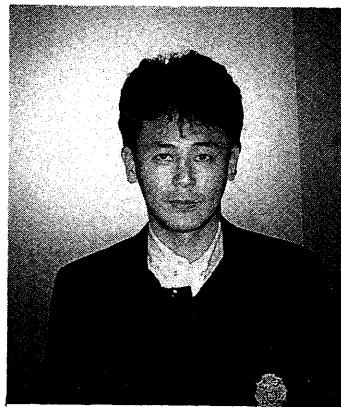
御仕事の都合上一時的に。

久保盛浩君

絹さん

六月十三日、和靈神社にて
三輪田宮司様祭主のもと、
御婚儀、J.A.宇和島会館にて、
華燭の典を挙げられました。

当日、新郎様は正服にて、
新婦様は十二单にて臨まれ、
神道青年会の会員、OBの
皆さんにより、雅楽の演奏
が行われ、風雅な宴であり
ました。
ご結婚、おめでとうござ
います。



合田 知由

堀江神社祢宜

生年月日 昭和四十一年二月四日

自宅 新居浜市新須賀町三十四丁目八九七

電話 三二一四六四七

一宮 利史

船跡森三島神社 祢宜

生年月日 昭和四十二年十月十五日

自宅 西宇和郡保内町川之石

電話 二一二〇五一五〇八九四三六一一四七

大岡 忠徳

電話 ○八九七

白山神社(本務) 権祢宜

萩岡神社(兼務) 祢宜

石鎚神社(兼務) 権祢宜

生年月日 昭和四十三年九月二十六日

自宅 新居浜市萩生一六三

*一言コーナー

幼き頃より堀江神社に鎮座せられる神々の御加護に依り、今日迄いささかの災い無く過ごして参りました。今後は非力乍も神々への御奉仕、そして、神道青年会に可能な限り御協力させて戴きたく申しあげます。

*一言コーナー

神職になりました事は、予想もしていませんでした。しかし、これからは新たな自分の進む道として、御奉仕出来れば幸いです。未熟な私ではありますが、宜しくお願い致します。

*一言コーナー

日々鍛錬、修行と思い、清明正直の精神で神明に奉仕して行きたいと思います。

編集後記

若竹第二十九号もようやく完成のはこびとなりました。

時間ばかりが過ぎてしまい、原稿は遅々として進みませんでした。誠に申し訳ございませんでした。

本年は、今までにない米不足で、各地で国産米の盜難騒ぎが相次いでおりますが、大変由々しき問題だと思います。

現在日本人は、経済大国といわれる程の発展を遂げましたが、その反面精神的なものがあまりにもなおざりにされ過ぎている様に思います。

大東亜戦争の終結後、相次いでアジアの国々が独立を果たしました。

いないし、人々も親切です。日本は見習いたい国です。「昔は、私達は植民地の人です。けれど、今は日本人と対等です。今は、昔の友達の所を訪ねた様な懐かしい気持ちです。」このような考え方を持つているアジアの方が多いという事実を、我々日本人はもつと知らなければならぬと思ひます。

米の問題にしても、それぞの国にそれぞれの稲作信仰がある。という事を理解して、米問題を考えゆかないと、そういう国の伝統・文化、そして我が国の伝統・文化を否定してしまふ事となるのではないであります。

現在の我が国には、米が足りません。ですから現在の米の輸入は仕方がないと思います。

現在の米を解放してしまう事は反対です。我々日本のアイデンティティーを失つてしまふ事になると思います。そして其と同時に水田を維持してゆく事に困つて水量を保持し、気温を調節し、緑を育んでゆきます。又、「米がなければパンを食べれば良い」と言つた事も言われている様ですが、米などの固めの物を咀嚼する事に因つて、我慢する力を増進し、癌を予防したりする効力や、自然治癒力を増進する効力があります。そして、脳細胞を活性化します。単に美味しい、美味しいとか、農薬が云々とかばかりではない、もつと別の角度からこの米問題は考えて行かなければならぬと思います。

自然環境の保全、水利問題にも絡んできて国土 자체を荒廃させる事にも繋がつて来ると思います。

日本人として、神職として、惟神の道に沿うようにもう一度、この米問題を考えてゆきたいと思います。

台湾のある方が日本に来られた時に、「私は日本語で教育を受けました。ですから言葉が通じます。それ安全だし、ごみに落ちて

振替番号が変りました。
御注意下さい。

会員の皆様へ 会費納入のお願い

神道青年会の会費納入率が五割を切りそうな状況です。会の活動のため、ぜひとも会費納入をお願いします。

県内各神社の皆様方、神道青年会活動に御理解御協力を戴き、ありがとうございます。本年度もぜひ、御協力下さいますよう御願い申し上げます。

愛媛県 神道青年会 会報

若竹 年会費 五千円

事務局 〒七九八

宇和島市和霊町一四五一

和霊神社内 吉田充邦

☎〇八九五一二二一〇一九七

FAX 一二一〇二三二七

編集者 〒七九九一ー三
東予市円海寺一九一

飯尾 真通

□・兼FAX

〇八九八一六四一〇八九二

振替 〇一六七〇一一一
三七三五八